

笹川保健財団 地域啓発活動助成

助成番号：2022－004

2023年3月3日

公益財団法人 笹川保健財団

会長 喜多悦子 殿

2022 年度笹川保健財団地域啓発活動助成 活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

住み慣れた地域（自宅）で最後まで過ごせることを、地域の方々に知ってもらう

所属機関・職名 在宅看護センターびりぶ 所長

氏名 馬場 美代子

1. 活動の内容・実施経過

講演会を実施するために、実施時期や講演者との講演内容について話し合いを持った。

コロナ禍でもあり会場は、広めの会場を準備するようにした。空きが12月か1月しかなかったため、コロナやインフルエンザの流行の事も視野に入れ1月に実施することとした。

講演会を二部構成として、一部をシンポジウム形式。実際に自宅まで最後まで過ごすことができた利用者さん家族、かかわった医師、ケアマネージャー、訪問看護師でケースの振り返りを行う。

二部を講演形式。最期まで自宅で過ごしたい希望をかなえた田島華子さんのお母さん田島早苗さんによる講演にて、最後まで自宅で過ごすために必要なことを伝えてもらう。

田島華子さんについては、NHKで放送された、「ある少女の選択～18歳」いのち“のメール”の映像をながした後に対談形式で田島早苗さんの思いを伝えてもらうこととした。

1部は、利用者家族は、当日の参加が難しいという事で、ビデオ出演となった。主治医は、コロナ感染中で参加が出来ず、訪問看護師が経過をまとめてパワーポイントを用いて話をした。ケアマネからは、かかわった時の思いや、ケアプランのポイントを伝えてもらった。

利用者は、脳梗塞後遺症で、認知症があり誤嚥性肺炎を繰り返していた。妻は、経口摂取を望んでいた為できるだけ望みがかなえられるようリハビリスタッフとも協力して最期まで経口摂取を行った。経口摂取が難しくなったときに、どのような方法があるのかについて説明を入れていった。

2. 活動の成果

実際、1月22日に講演会を実施。参加者は30人。地域の包括支援センター教員、看護学校の教師、地域の介護施設職員、民生委員などの参加があった。

アンケートの自由記述を示す。

参加した看護学校教員から、ぜひ学生に聞かせたいという希望があり、在宅で最期まで過ごせることの意味や社会資源について理解してもらえたと考える。

「ここまでできる在宅療養」アンケート結果

ポジウムについて	田嶋さんの講演について感じたこと
看送る覚悟をしっかりとって家族をささえたい	患者や家族に寄り添わない医療従事者のいるリアルな現状を感じた
信頼関係づくりが大切だと思う	医療従事者と戦った田嶋さんはすばらしい
家族に寄り添い、尊重して関わること	医療従事者がもっと在宅看護に関わっていく教育が必要
在宅で両親をみたいとき、ケアマネ訪問看護等利用して出来そうだと思う	本当の幸せとは何かを見つめなおすきっかけになりました
在宅の良さをぜひ周囲の人に伝えたい	一人の力では難しく多職種連携の重要性を感じた
これから在宅に入るが、私一人の力では無理でも支援を受けながら今できることを精いっぱいやりたい	家族の自己選択と家族の思いの違いがある中での最終選択を考える
在宅の体験談を聞けてとてもよかった	田嶋さんのやり切りました、という言葉が印象的だった
いつまで生きるかではなくどう生きるかという言葉が印象深い	18歳の女性が自分の命を決めることが出来るには周囲のサポートがあるから
人らしく自分らしく生きることが重要	本人と家族の意思を尊重して周りはサポートに徹することが大切だと思った
家族の気持ちややってもらいたいことを傾聴・理解しないと支援にならないと感じた	
コミュニケーションの大切さを感じた	
夫を自宅で看とった妻が「悔いはない、精いっぱいやった」と言える訪問看護の存在を尊敬した	
在宅看護では家族の思いを良く聴いて尊重したうえで看護が行われており素晴らしいと思った	
病院では家族への話が一方的なことが多いと改めて気づいた	
マスコミなどを通して在宅療養について広めてほしい	
医師の話などあれば理解が広がると思う	

3. 今後の課題

コロナ禍でもあり、講演会は zoom などの活用も視野にいれたが、地域の高齢者などの参加を促すためには、季節を考える必要があったと考える。

また、今回の講演会は、ビデオ撮影したため、それを用いて地域に出前講座を計画することも今後計画していきたい。

看護学生に対しては、講義で伝えてきたが、実際の家族の話はリアリティーがある為もっと伝わりやすいのだろうと考える。

4. 活動成果等の公表予定（学会、雑誌）

今回は、予定していない。

今後、地域での講演会を再度実施し成果を学会発表に繋げたい。

在宅医療講演会

ここまで出来る在宅療養

日時:令和5年**1月22日**(日)

10:00～13:00 開場 9:30～

場所:佐賀市立東与賀文化ホールふれあい館

10:00～11:30 シンポジウム

11:40～12:40 講演 田島早苗さん

12:40～13:00 質疑応答

参加費
無料



主催:一般社団法人**居笑** 在宅看護センター ビーふ
看護小規模多機能型居宅介護 ビーふ

問い合わせ:在宅看護センター ビーふ 昼間:0952-45-8870 馬場
夜間:090-6291-6263